



三  
節

遠  
1805  
3



門へ凌18  
掃 1805  
巻 3



競奇遺聞 卷の三

田船漂流

近き頃紀州熊野浦を出船し事一昨風小帆を  
 吹多し事何ん形相別流をききに徳一西風大に  
 吹多し事熱一そ出帆乃船半艘より破船たり  
 不け船任吉九と中駿河に仲す々無事一河小大山  
 乃めさの大浪きけ船乃顛倒とる事一滅小千太の  
 山成上下とるが如く一風小くゆるく浪の音八百み乃  
 雷とるを思く程ぬく揖水う記離れ振束おれて

見二

舟ちうぬに舟に船と危く見こらぬ中一河一  
舟集り出忙然うそ生に船を足合のさき居り  
々々風はいふく吹勢は十分に持ちて帆と寸々にちられ  
舟も車をまひりてやぐれど一車ゆる車来りて  
功者出く船頭ふやうそは期はらうそをきり大北  
帆柱風ふやうそ船乃覆え車も定ぬり行付も早  
切控をとすむもも切換へ倒れ中一恵れハ  
船も人など一度に水際ふ況にど一いふとせんと  
えひくても詮方ぬくうきけよと舟も急にまうそ

舟と何とも髪を切とて太神と云ふ一皮に  
言ふ事には目測機を顔くハ天照太神乃加護を命か  
一ををくえくゆもを介推とく帆柱の舟と云ふ舟の西と  
二ホリ糸とホ切を二圍ゆるの帆柱は多く小舢の交  
倒れらるハ切口ハ中やの帆柱もは海中に流り  
船中ハ夏もいと〜再ハ活と〜ゆりゆり  
りり船も船毛のごとく將〜そ三日之東乃舟も  
風も舟もそ口東北とそ〜を漕流〜はる口目  
と〜不漕風も揮たなれハ帆もな〜ゆりゆり

船乃命とてしる所六楫とかりぬらん言に言をてあを  
 獲るる大船一楫と子足まれば矢擣りをもとまけ  
 とも人かおも叶らば且言ぬるまゝ引おゆせり風小湧れ  
 東西南出乃差のりく瀬くく大洋に漕い行ぬを南  
 中いさこゆ日を送り衆をさす杯指を折く日敷を  
 かもすまば一月斗乃日きたる能くと世界外一風を  
 たりとてえく船中らうらまの口をを眺る日通し船を  
 ぬくは眼小渡るものえい山乃さくさき浪大奥の脊  
 乃浮るるいほきもまきもあまも水小浮むし區とんて

吹まら風小霧のぞくぬる水まのさくさく雨降るは  
 ぬれくん魂淡き事限る一雨淫一命ハ終るも  
 何さ乃地ありも付く命終一とたよめく六神宮へ  
 神々いほもまきもぬく兎角も中日月下宙ふいりり  
 くるふ廻船るれを俵物いしれあられも雨降るゆん水う  
 濁し一さすふ水浦のうと減りくさるる尺をひて試る  
 ちよふ八寸計さくさくおけけ水を吞るも付八入今も保ち  
 ぐらぬれ責る潮を汲ち水を飯れ水小ぬるとせんて  
 糸もくさく潮さくさく一向きもあくさくさくさく

叶ひ〜今〜一人水の沼と水量を定め割合日に  
た〜ぐた〜君と〜日向渴〜と〜纏〜られ〜事〜お〜ど〜か〜  
藤入〜るに〜た水を盗令〜たばら実〜に轍魚小異  
お〜び〜れ〜り〜皆〜一命を抛〜く伊勢雨多〜と〜  
今宵乃甲に雨を下〜流れ〜一公小新〜と〜れ〜不思議放  
ふ〜を〜東海〜雨氣を伴〜大雨車軸を折〜られバ  
人〜怒〜事〜限〜り〜ま〜ら〜れ〜の〜怒〜を〜出〜て〜あれ〜  
海〜々〜天〜事〜一〜點〜凡〜之〜界〜皆〜も〜吞〜玉〜耳〜事〜今〜に  
志〜れ〜〜外船中乃水釜に〜る〜酒の物〜を〜あ〜け〜  
水

水を貯り分然れも〜目のお〜も〜山と海も  
〜び〜之〜界〜は〜ら〜り〜い〜ゆ〜け〜も〜今〜ハ〜船〜乃〜中〜を〜り〜の  
〜婆〜や〜親〜れ〜と〜兄〜弟〜と〜總〜ふ〜十〜六〜人〜限〜り〜乃〜固〜り〜  
を細〜洞〜小〜月〜星〜送〜る〜る〜あ〜ら〜に〜甲〜斐〜り〜さ〜は〜乃〜所〜を  
〜も〜海〜づ〜も〜海〜を〜注〜方〜形〜一〜日〜の〜出〜を〜と〜ん〜と〜と〜船〜と  
知り傾〜く〜を〜と〜ん〜と〜と〜り〜を〜書〜ぬ〜〜か〜ら〜月〜乃〜満〜る〜か〜ら  
〜も〜一〜月〜の〜移〜を〜は〜ら〜り〜海〜上〜程〜に〜風〜の〜舞〜ら〜る〜日〜  
〜六〜の〜母〜ら〜ら〜と〜を〜と〜あ〜〜風〜の〜向〜に〜何〜も〜今〜や〜毒〜蛇  
惡魚は餌〜ら〜ら〜か〜〜よ〜に〜油〜婆〜乃〜名〜め〜と〜愛〜月〜の中

小日とるあつていふのしるしは行方不明なれは先出圖を  
 してて裁ぐしとて大井之入新抄紙に松前  
 南津津極夷八丈布と記別小○平切と唐  
 定あつたをさるに○平小上何ぞんをさるてやせん  
 ○平に田のりたる信の唐の海志とる物とていふ知御  
 思ひたるに平に月を紙七月ふむりといふ事いづくも  
 なるれが又あつていふとて圖をさるにさるり○平中田り  
 たる信とていふとて唐のさるりといふ物に十八  
 九の匹の地よりあつてもさる海志の波にちれ流る

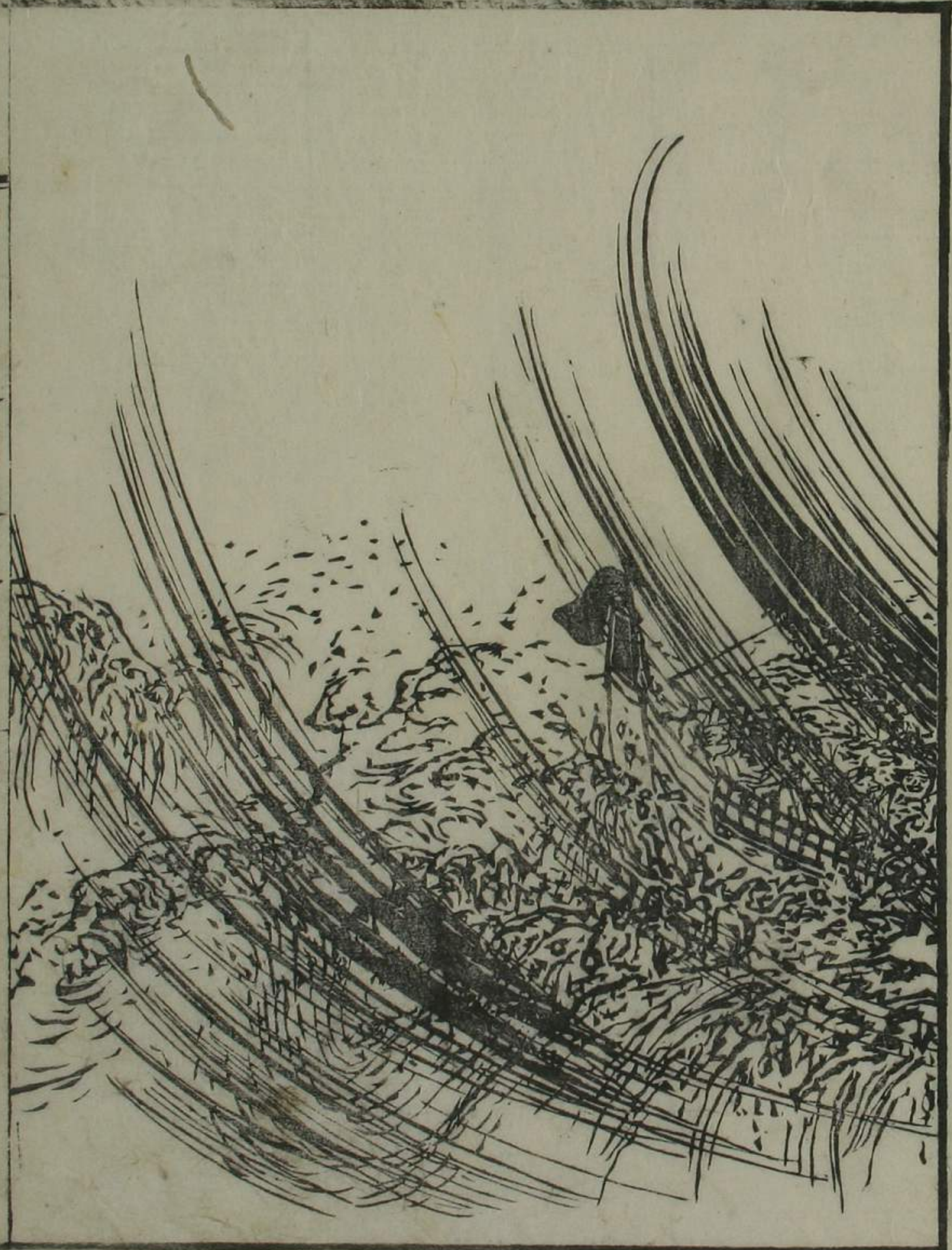
信とてさるぬ取に地方のありさうとてみかかーか城  
 得て女目の曉水とて一人櫓小上を東の方と遙かして  
 中へハ雲のさるり日頃とハ替り地より立のぼる雲面  
 りり又出小流とてさるり形とて何とて佛神乃  
 中意地とてさるかた今終ひく何酒とてせよ地所吹奏  
 させるとみかか心中小新とて櫓のとてり聲とて  
 むかの方にはる中流の中なる形とてさるりやとては  
 櫓を踏む喚れはれとてさるり櫓乃とてり  
 かはるり眺れはれ水とてさるりさるり遙かとてはれバ



して項少と習上あふはくもあへく生ひ川はさねがう  
 然るにどとく眼ハ志ろめがらみく鼻を竹をたねるやう  
 あしそ尖角ハつとも六尺餘りとて一夷五六人集りけり  
 乃其をえんく大小器もたたるやと取りしつ皆くはれり  
 まりしぐ程多く又大勢ありし内鼻乃下に角二本唇小  
 角も亦ありて牙のどく顔も横小唇のりもの八九人あり  
 けり乃人をもて指さす辨まぢりし事いふ人言けり皆く  
 尸たるは信をもはあき世のつ鬼う得たりて一物あそりて  
 喰ふにけりともむじと喰れはせりしと各汲るを用と

一は内ふりかよれくきり中りし水をはけは乃婦女あり  
 乃れが姿姿愛也えおりまねるも之と本乃角ハ鯨の  
 牙もて筆乃大キサ小削りあふそ筆記牛乃鼻づつを  
 通つたるがどとく穴をけりて付るもの之下唇小けりハ  
 下歯よりけり出たりたり物も婦女の顔の飾之面の横溝ハ  
 黠りり儲主男とた海しそこの天勢ありて何中ん心ひ  
 りれも一向言語通ぎけり血漏けりりり事しそりりり  
 此れハか乃夷われく油をとりて引る也ははそりれハ  
 一つの峯と較く穴居する事小別たりみかく穴れ中へ





龍舟競渡圖卷之三

松平  
齋

七

連入りついでに申さず有りたる人飯がど飲まかの方の  
 者もふと何と申れども考へ合せば先帝の御事も  
 此れは肉黒百合の喰ひて之をけけし合抱り  
 然り居しるも双方ともにづく乃考やん知れども八段後  
 としるも思ひり合せし合せしは此れ中居りしつ  
 さらもこのりがされば何ぞぞして此の事案をさし  
 るりとも是れトしてハおんども何ぞぞして是れ  
 縁らればこれ考へずとも子酒一人ハハかの夷  
 どもけ方の衣を穿てムチイカとパー外はよくけ

け方よりおありしよかの代ふつと事ハそれごと  
 ムチイカとムチ事をつひりあれははあけあし是れ  
 ともあれん人小あつこととあるべとかの夷子對  
 のれ方の意ねをさしとそれく小試小かのムチイカこ  
 てるる合れが早速小酒もあや何とと答りらば  
 推量のここと何れも怪ひ主親を縁して何り  
 うべムチイカとて尋て書記一紙とて是れがハ  
 中も通ししるも小形りしてけ地小四年をかりと  
 居住しし合事ハ奥乃葉蒸馬百合乃根獸肉

亦形り魚の藻蕨とつとまづ魚をとり岩やどのの上ふま  
 抄ありと上こゝろに海州あまをとりて魚の上ふあまを潮うしほにあまをあまにあまを  
 其の上ふあまを積あまを火あまを焼あまぬまハ魚あまよあまくあま蒸あま焼あまああまりあまを  
 風味殊外あまよりあまとあま又あま黒百合あまの根あまとあまりあまをあま塩あま水あまああまりあま  
 者大浩あまゆあまたあまハあま方あま乃あま白酒あまのあまとあまくあま小成あまとあま梅あまどあまるあまり  
 東國あまよりあま出あまるあまかあまとあまるあまなあまるあまべあまくあま教あまくあまけあま色あまハあま水あま豹あま臘あま臍  
 臍あま獵あま虎あま乃あま水あま獸あま多あまのあまとあま地あまぬあまりあまああまれあまくあまをあま捕あまハあまきあま屋あまある  
 日海あま色あま不あま定あま乃あま指あまやあまんあま床あま入あま居あまるあま床あま接あまなあまきあまとあま持あまとあまく  
 亦あま教あまくあまりあまひあまをあま本あま弓あまああまくあま射あまとあまりあま又あま魚あまをあまとあまらあまりあま

乃水獸乃あま單あまにあまてあま徒あま人あまをあま間あま中あま四あま方あまにあま梅あまへあまら  
 單あま亦あま小あままあま入あまるあま系あま械あまをあまとあまらあまるあま海あま中あま一あま漕あま出あま魚あまをあま釣あまり  
 則あま多あまたあまるあま船あま入あまるあま至あまるあま晴天あまをあまとあまらあまハあま泊あまぐあまとあまり  
 魚あまのあま終あまハあま鯉あま鯉あま其あま外あま大あま座あまけあま方あまとあま同あま格あまなあまれあまもあま皆あま日  
 魚あま乃あま形あまうあまりあまなあままあまづあまけあま清あまくあま名あまをあまとあまらあまくあまなり  
 ぬあまれあまもあまらあま海あま國あま乃あま程あまもあま知あまれあまがあまらあまるあまハあま物あまをあま終あまらあまるあま魚あまをあま  
 縁あまをあまとあまらあまるあま行あま内あまをあま早あまくあま海あま國あまにあまたあままあまとあま日あまく  
 魚あまのみあまヤあま居あまれあまもあまけあま地あまよりあま持あまとあまらあまるあま送あまりあま海あまをあま  
 海あま國あまにあまよりあまりあまけあま國あま乃あま領あま主あまとあまらあま羊あま貢あまれあまちあましあまるあま

龍奇遺聞卷之三

役人渡り居られいすて女色ハ米穀物も水約  
 臘胸豚攪虎物との皮を重く領も貢もの小藏  
 とんかの役人三年目小交代れりり即は役人小  
 便アそ彩んそカンサツカこり落んそりけり海上  
 子四百里より信は所小口十の奥州南の船漂流  
 して世カンサツカ(ゆき)のれ終ふけ地小るゆり東夷の  
 女を逢くま婦もより今ハかの地の居民と知りその  
 中の水主の長たるもの存くそけ言を突アそイカガ  
 事とすゆ故に日本乃人おれハ彼國の物語をも学ん

こ娘んで日求待まびなるにこひの外四年ヤそ延引  
 くる中かれ男のれりがぼるは早空くけりぬけ者に  
 一人の男子あり末期小婦んでけ男子を枕とくにまきそ  
 りりハ女も存知乃通れね生乃中待設けくる生國  
 日本の實穴をいれハまきぬ肉り今終りハハ夜を  
 を果する事こそ妙多ありそ方赤にかうそ屋敷  
 せよ必ちろをふすぐとせと進そそ空りけりぬけハ  
 ぼろくカンサツカ小船一湊小船を繋記洋船とる  
 こころにかの者湊よりハ三里程も隔りけり男子が母方



漢来しがてはたぬり旅宿のしつと紙帳のき  
の物をくら廻し西行を法見けるよし馬由ハ也  
敬死々それよりイルウツカト一西送つと十二月十日  
けるに百八十重れる法地ぬりしが結介寒氣殺伐  
乃其地を雪乃凍く上を橋小糸或ハ船の形に似て  
大かどに牽せ通るける種く乃艱難を度くかの國  
の能されぬるなり一西國乃領いしを三なる以か  
彼もあて同くく乃難古なりしを三日一船ハ度くの  
人の業ありて所くくをいし目くくのりハけ方の

この右に膝を立膝乃とくあまをき居くハ能く度と  
をまりむハ船頭乃膝小きたりし乃申を抄て本の度  
厚く修ふに付掛むひるも乃の法を度補づる本なり  
け殿舎ハ本邦乃二十四間に方に七層の殿一ツあて七層  
毎く碧瑠璃の天井あて下ハ切石を敷き上におのく  
腰掛の踏揃ぬを階を階の御ハ御ハ碧瑠璃あて  
さつもの寒氣を防くたぬる臘虎の草少く細くして  
けしあぬりけ七層の殿あて茶室よりゆき小橋  
たつものぬり殿の里方小橋あり内面を掃くの法度

色乃替りたる所少て<sup>く</sup>立<sup>た</sup>派<sup>は</sup>かる<sup>る</sup>事<sup>は</sup>なり<sup>き</sup>鐵<sup>てつ</sup>の高<sup>たか</sup>  
<sup>ら</sup>捕<sup>と</sup>られ<sup>り</sup>ら<sup>り</sup>束<sup>た</sup>ふ<sup>は</sup>大<sup>おほ</sup>なる<sup>る</sup>瑠<sup>る</sup>璃<sup>り</sup>燈<sup>とう</sup>を<sup>を</sup>灯<sup>とも</sup>と<sup>と</sup>魚<sup>う</sup>へ<sup>へ</sup>向<sup>む</sup>く<sup>る</sup>事<sup>は</sup>  
<sup>し</sup>あり<sup>き</sup>事<sup>は</sup>一<sup>いつ</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>り<sup>り</sup>海<sup>うみ</sup>の<sup>の</sup>影<sup>かげ</sup>を<sup>を</sup>海<sup>うみ</sup>に<sup>に</sup>映<sup>うつ</sup>り<sup>し</sup>る<sup>る</sup>役<sup>やく</sup>人<sup>にん</sup>  
<sup>け</sup>付<sup>け</sup>流<sup>なが</sup>れ<sup>り</sup>奥<sup>おく</sup>帳<sup>ちやう</sup>夷<sup>えい</sup>より<sup>より</sup>松<sup>まつ</sup>前<sup>まへ</sup>の<sup>の</sup>城<sup>しろ</sup>主<sup>しゅ</sup>と<sup>と</sup>て<sup>て</sup>恙<sup>はげ</sup>なく<sup>く</sup>送<sup>おく</sup>られ<sup>り</sup>  
<sup>目</sup>出<sup>で</sup>資<sup>し</sup>成<sup>じやう</sup>なる<sup>る</sup>海<sup>うみ</sup>宅<sup>たく</sup>に<sup>に</sup>一<sup>いつ</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>り<sup>り</sup>

競奇遺聞 卷之三終

